

いまさら聞けない！ Sambaによる ファイルサーバ構築入門



たかはし もとのぶ (高橋基信)

monyosamba.gr.jp

<http://wiki.samba.gr.jp/>

セミナーのねらい



- 対象となる方
 - Linuxインストールはできる(できた)
 - Sambaの設定ははじめて
 - Sambaの基本的な設定はできる
 - 一歩進んだ使い方を知りたい
- 目的
 - 個人、部門サーバを立ち上げる手助けになる事
 - ディストリビューション付属のSambaを対象
- デモ
 - CentOS 5.2 (RHEL系Linuxディストリビューション)

セミナーの概要

- Sambaとは
- Sambaのインストール、初期設定
- Sambaの設定
 - 全体の設定
 - ユーザーホーム設定
 - Sambaユーザの操作
 - 起動と終了
- 応用編

3

セミナーの概要

- 応用編
 - 認証編
 - アクセス制御編
 - 共有のテクニック編
 - その他のテクニック編

4

Sambaとは

- **Windowsサーバ互換**の各種機能を提供
 - ファイル、印刷共有、NTドメイン機能など
 - **Linux**をはじめ、*BSDや各種商用UNIXで動作
- **オープンソース** (GPLv3/v2準拠)
 - 無償でソースコードの入手、改変が可能
- **実績**がある
 - 企業内導入も多数 (CALが不要)
 - 各種Linuxディストリビューションに標準添付
 - アプライアンス製品にも利用 (廉価版NASなど)

5

Sambaとは(2)

- **最新バージョン**はSamba 3.3.2
 - 最新のSamba 3.3系列は、2009年1月にリリースされたばかり (Samba 3.2系列は2008年7月リリース)
 - ディストリビューションに同梱されているのは、旧安定版のSamba 3.0系列が多い (最新: Samba 3.0.34)
 - **Samba 3.0系列のサポートは2009年7月に終了予定**
- **通常**のファイル共有には十分な機能が実装
 - Active Directoryの機能は持っていないが、Active Directoryのメンバサーバにはなれる
 - Windows NT 4.0のドメインコントローラ機能は実現

6

Sambaの利用イメージ

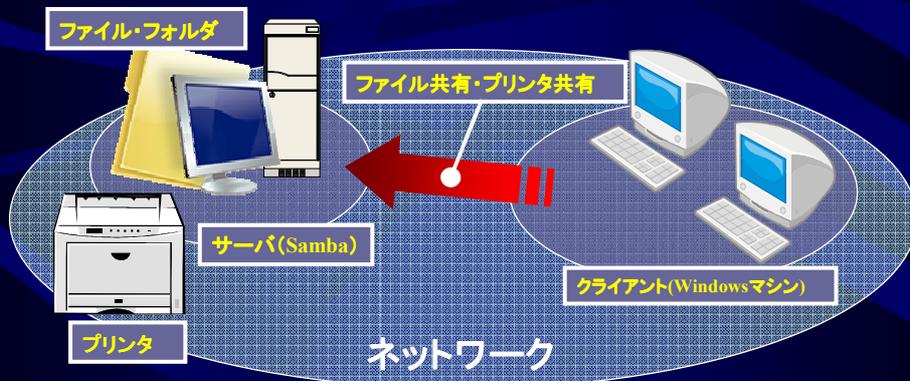
- Windowsサーバのファイル、印刷共有と見分けがつかない(ですよね)
- Windowsマシンの設定変更不要



Windows Vista から Samba 3.2.6 サーバにアクセス

Sambaの利用イメージ(2)

- LinuxサーバでSambaを動作
- クライアント(Windows)で特殊な設定は不要



Sambaの実力

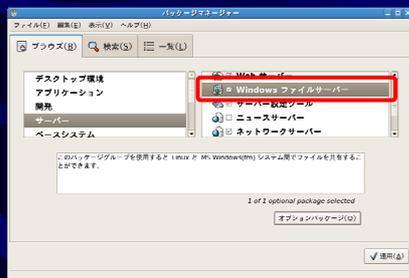
- 互換性が不十分ではないか?
 - 100%互換ではないが、通常の運用では問題なし
- 日本語対応は?
 - 特に問題なし
- Windows Vista・7 等新製品/機能への対応は?
 - 最新版で随時対応
- コストは?
 - 少なくとも初期導入コスト(ハード、ソフト)は低減可
ただし運用コストが低減できるかは状況次第

Sambaのインストール

- パッケージ利用が簡単
 - 「Windowsファイルサーバー」を選択

```
$ su -
Password: rootのパスワードを入力
# yum install samba (samba-client)
```

コマンドラインからのインストール



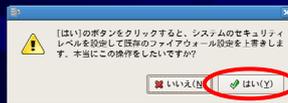
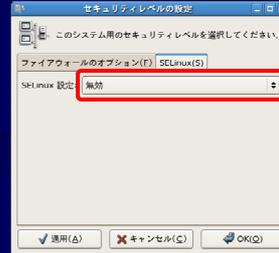
インストール後に追加パッケージとして選択
「アプリケーション」-「ソフトウェアの追加/削除」



インストール中にパッケージを選択

Sambaのインストール(2)

- セキュリティ設定の変更
 - SELinuxを「無効」(もしくは「Permissive」)に変更する
実際は「有効」でもSambaの実行はできる
ただし、設定の難易度が高く、上級者向き
 - ファイアウォールでSambaを「信頼できるサービス」に
(もしくはファイアウォールを「無効」に)
 - 警告メッセージには「はい」を選択



「管理」-「セキュリティレベルとファイアウォールの設定」

Sambaの設定

- smb.confファイルを編集するのが現実解
 - /etc/samba/smb.conf
- 設定の心構え — まずは簡単な設定で
 - 設定できる項目は多いが、殆どはデフォルトでOK
 - 焦っていろいろオプションをいじらない
 - セキュリティ関連の設定は動作を確認してから



- ステップバイステップで焦らずに!

Sambaの設定(2)

- GUIからできないの? → 一応あります
 - 「システム」-「管理」-「サーバー設定」-「Samba」

が.....

- ちょっと力不足
 - 別途 `smb.conf` の編集が必要



13

Sambaの設定(3)

- Webで設定できないの? → SWATがあります
 - Webベースの設定ツール
 - 操作は簡単

ただし.....

- 問題もある
 - `smb.conf` の知識は必要
→ 設定の難易度は一緒
 - 平文で `root` のパスワードを入力する必要がある
 - 設定ファイルのコメントが消去される



SWATの設定画面

14

Sambaの設定(4):SWATの設定

- SWATのインストール

- コマンドラインから実行
samba-swatパッケージ

```
# yum install samba-swat
...
Is this ok [y/N]: y ←確認に「y」を入力
```

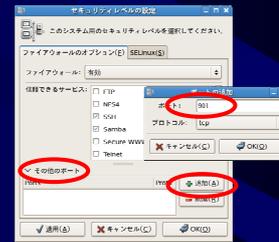
- SWATの有効化

- コマンドラインか
「サービスの設定」で

```
# chkconfig swat on
```

- ファイアウォールの設定

- 901/TCPポートへのアクセスを許可
→「管理」-「セキュリティレベルとファイアウォールの設定」
- /etc/xinetd.d/swatファイルの編集
→アクセスを許可するアドレスを指定



アクセスさせたいアドレス範囲

```
only from = 127.0.0.1
only from += 192.168.135.0/24
```

Sambaの設定: smb.confファイルの構造

- 基本構造

```
[セクション名]
パラメータ名 = パラメータ値
:
```

- 各セクションが共有に対応

- [global]、[homes]、[printers]の特殊セクションがある
 - [global]セクションだけは、特定の共有に対応しない

smb.conf

```
[global]
Samba全体の設定
parameter = value
[homes]
ユーザホーム機能(後述)
の共有の設定
[printers]
OSで定義されたプリンタの為の
共有の設定
[share1]
share1共有の設定
[share2]
share2共有の設定
...
```

Samba全体の設定(1)

- これ以外はそのままで
 - `workgroup = ワークグループ名`
 - 既存ネットワークの設定にあわせる【推奨】
 - `os level = 1`
 - 「ネットワークコンピュータ」関連のトラブルを避ける【推奨】
 - `wins server = x.x.x.x`
 - WINSサーバが存在している場合は設定【推奨】
 - `log level = 1` (行を追加)
 - ログの詳細度。運用中は1程度、最初は高め(3程度)【推奨】
 - ※/var/log/sambaに出力される

```

root@centos652:/etc/samba
Network Related Options
workgroup = NT-Description or Workgroup-Name, eg: MIDEARTH
server string is the equivalent of the NT Description field
# Hosts Allow/Hosts Deny lets you restrict who can connect, and you can
# specify it as a per share option as well
workgroup = HOME
server string = Samba Server Version %v
netbios name = MYSERVER
Interfaces = lo eth0 192.168.12.2/24 192.168.10.2/24
hosts allow = 127.192.168.12.192.168.13

Logging Options
Log File let you specify where to put logs and how to split them up,
# Max Log Size let you specify the max size log files should reach
# logs split per machine
log file = /var/log/samba/%s.log
max smb per log file, then rotate
max log size = 50
log level = 1

Browser Control Options
set local master to no if you don't want Samba to become a master
browser on your network. Otherwise the normal election rules apply
OS Level determines the precedence of this server in master browser
elections. The default value should be reasonable
Preferred Master causes Samba to force a local browser election on startup
and gives it a slightly higher chance of winning the election
os level = 1
preferred master = yes

Name Resolution
# Windows Internet Name Serving Support Section:
# Master: Samba can be either a WINS Server, or a WINS Client, but NOT both.
# via DNS lookups
wins support = yes
wins server = w.x.y.z
wins proxy = yes
    
```

17

デフォルトから追加、修正する箇所

Samba全体の設定(2):日本語関連

- 日本語のファイル名(など)を使用する場合は、必ず設定を確認する
 - 海外のLinuxディストリビューションなどでは、必ず設定が必要な部分
- `dos charset = CP932`
 - 日本語利用を指定【必須】
- `unix charset = UTF-8`
 - smb.confファイルや、ファイルシステムで用いる文字コード【環境依存】
 - UTF-8(デフォルト)が無難
 - EUCにしたい場合は「EUCJP-MS」を、シフトJISにしたい場合は「CP932」を指定する

```

root@centos652:/etc/samba
Global Settings
[global]
dos charset = CP932
unix charset = UTF-8

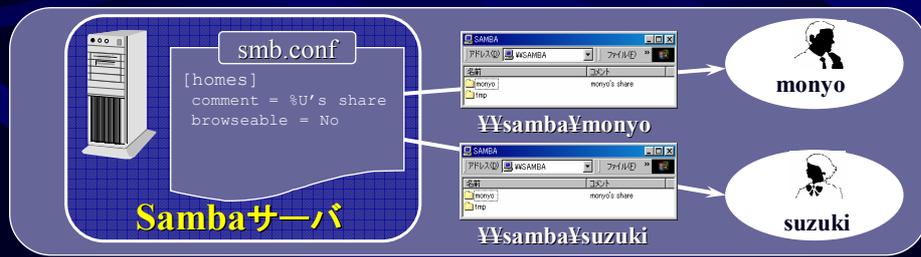
Network Related Options
workgroup = NT-Description or Workgroup-Name, eg: MIDEARTH
server string is the equivalent of the NT Description field
# Hosts Allow/Hosts Deny lets you restrict who can connect, and you can
# specify it as a per share option as well
workgroup = mygroup
server string = Samba Server Version %v
    
```

CentOSのデフォルトでは何も設定されていない
globalセクション先頭に追記

18

ユーザホーム機能(1): 概要

- ユーザーホーム機能
 - 各ユーザのホームディレクトリ(ユーザ専用ディレクトリ)を自動的に共有する機能
 - **自分のホームディレクトリ共有だけが表示される**
設定次第で、他人のホームディレクトリ共有にアクセスしたり、表示したりすることも可能



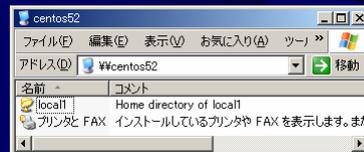
19

ユーザホーム機能(2): 設定

- homesセクションを設定 (CentOS 5.2では設定済)

```
[homes]
browseable = No ← [homes] 自体は不可視にする【必須】
writeable = Yes ← 更新可能にする【必須】
valid users = %S ← 所有者以外のアクセスを禁止する【任意】
```

- 必ず **browseable = No** にする
- **comment** 行は削除することを推奨
 - デフォルトのコメントが表示される
- 自分以外のホームディレクトリも **//server/username** 形式でアクセス可能



ユーザlocal1でアクセスしたところ

20

ユーザホーム機能(3): 応用

- 「.」ファイルを参照されたくない場合
 - veto filesを使う

```
[homes]
...
veto files = /.??*/ ← 「.」から始まるファイルへのアクセスを禁止する(/.*/)とすると親ディレクトリにアクセスできなくなる)
```

- ユーザホーム機能の提供するホームディレクトリの位置を変更する

```
[homes]
...
path = %H/smbdir ← ~/smbdir以下を公開することで、ホームディレクトリ直下の「.」から始まるファイルへのアクセスを回避する
```

ここまでの設定のまとめ

- 最初はあまり凝らないこと
- この程度でも最低限使える設定になる

```
[global]
dos charset = CP932
unix charset = UTF-8
workgroup = HOME
os level = 1
wins server = x.x.x.x

[homes]
browseable = No
writeable = Yes
```

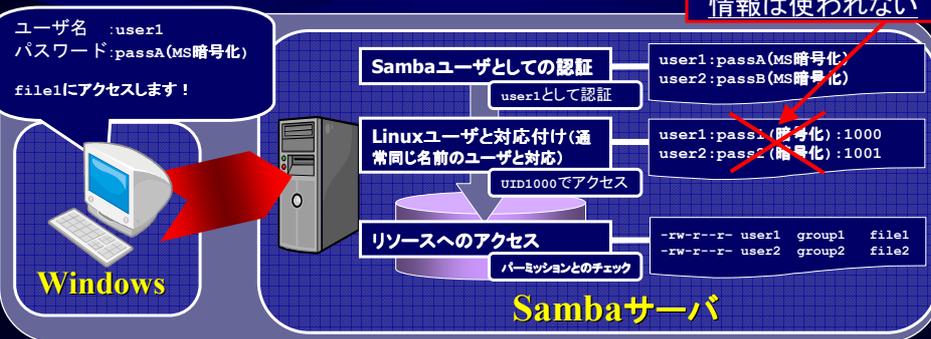
ここまでの設定で作成したsmb.confファイル

Sambaユーザ: 概要

- Sambaユーザはなぜ必要?

- Windows用の認証情報とLinux用の認証情報は形式が異なる → 共用できない!

Linuxのパスワード情報は使われない



23

Sambaユーザ: 作成、削除

- Sambaユーザの作成

- Linuxユーザを作成後、以下のようにして作成

```
# smbpasswd (pdbedit) -a user1
New SMB password:          ← パスワードを入力
Retype new SMB password:   ← 再度パスワードを入力
Added user user1
Password changed for user user1.
```

- Sambaユーザのパスワード変更

```
# smbpasswd user1          ← rootの場合
$ smbpasswd                ← 一般ユーザの場合 (自身のパスワードのみ変更できる)
```

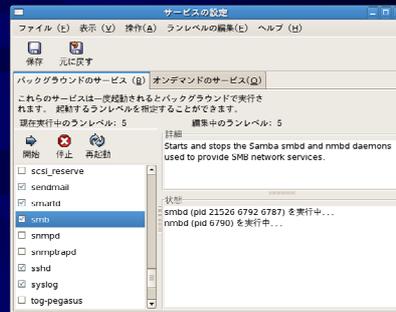
- Sambaユーザの削除

```
# smbpasswd (pdbedit) -x user1
```

24

Sambaの起動、終了

- 「サービス」からsmbサービスを制御
「システム」-「管理」-「サーバー設定」-「サービス」
- SWATからも起動可能
 - 状態表示 (STATUS) より
- 自動起動の設定
 - 「サービス」の「操作」メニューから設定、確認
- コマンドラインの場合
 - 起動、終了はserviceコマンド、自動起動、終了に関してはchkconfigコマンドを使用



```
# service smb [start|stop]
# chkconfig smb [on|off]
```

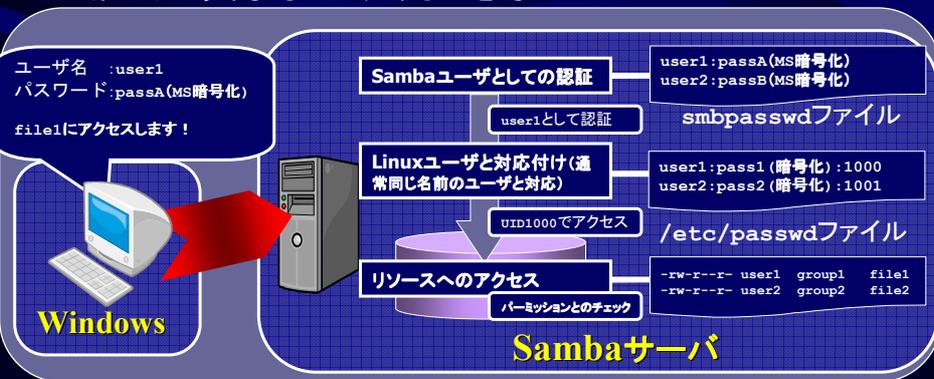
Sambaサーバへのアクセス

- あっけなくアクセスできる、はず

応用編(1):認証編

Sambaユーザはなぜ必要？

- 答: パスワードを暗号化しているから
 - Windowsの暗号化形式とLinux用の暗号化形式は形式が異なる → 共用できない!



UNIX・Sambaユーザのパスワード同期

• Sambaユーザ→UNIXユーザ

```
[global]
  unix password sync = yes ←パスワード同期の有効化【必須】
  pam password change = yes ←PAMによるパスワード同期を
                             有効化【場合による】
```

- PAMが有効でない場合は、passwd programパラメータとpasswd chatパラメータを適切に設定
- パスワード変更は普通に実施
 - pdbeditやsmbpasswdコマンドを使用

UNIX・Sambaユーザのパスワード同期

• UNIXユーザ→Sambaユーザ

- pam_smbpassモジュールをインストール、有効化
samba-commonパッケージをインストールの上、以下のような設定を/etc/pam.d/system-authに追加(CentOS 5.2)

```
auth    ...
auth    optional    pam_smbpass.so
                             ←パスワード同期の有効化【必須】
```

- rootによるパスワード強制変更時は同期できない
→ 現在のパスワード情報が提供されないため

Windows・Sambaユーザのマッピング

- Windowsユーザ名とSambaユーザ名のマッピングを任意に設定できる
 - 静的マッピング: `username map`
 - 動的マッピング: `username map script`

```
# Unix_name = SMB_name1 SMB_name2 ...
smbuser = domsmbuser1 "dom¥smbuser1"
monyo   = "Takahashi Motonobu" "高橋基信"
```

Username Mapファイルの例
「Takahashi Motonobu」や「高橋基信」というWindowsユーザを「monyo」というSambaユーザにマッピングしている

ゲストアクセス(1): 概要

- 存在しないユーザは原則接続できない
 - `guest ok = yes`だけではゲストアクセスできない



- **ゲストアクセス機能**
 - 認証できないユーザのアクセスを**ゲストアクセスとして認証する機能**

ゲストアクセス(2):設定

- ゲストアクセスを可能とする
 - Windowsのguestアカウントと同様の機能
- map to guest = Bad User
 - 存在しないユーザからのアクセスをゲストアクセスとみなす
 - 存在しないユーザからのアクセスを許可しない場合はNeverにする
- `guest ok = Yes/No`
 - 各ファイル共有でゲストアクセスを許可するならYes
- `guest only = Yes/No`
 - 全員のアクセスをゲストアクセスとみなす場合はYes

```
[global]
map to guest = Bad User
guest account = nobody

[share1]
guest ok = yes
guest only = yes
```

smb.confファイル

33

ゲストアクセス(3):設定例

- Sambaユーザが存在せず、認証できなかった場合でもアクセス(書き込み、読み取り)可能な共有

```
# mkdir -p /home/samba/public ←共有したいディレクトリを指定
# chmod 755 /home/samba/public
# chown smbquest /home/samba/public ←ユーザは予め作成しておく
```

- 全てのユーザがsmbquestユーザとしてアクセスする
- `writable = no` にすれば読み込み専用共有
- `guest only = no` にすれば認証に成功したユーザは実名ユーザとしてアクセス

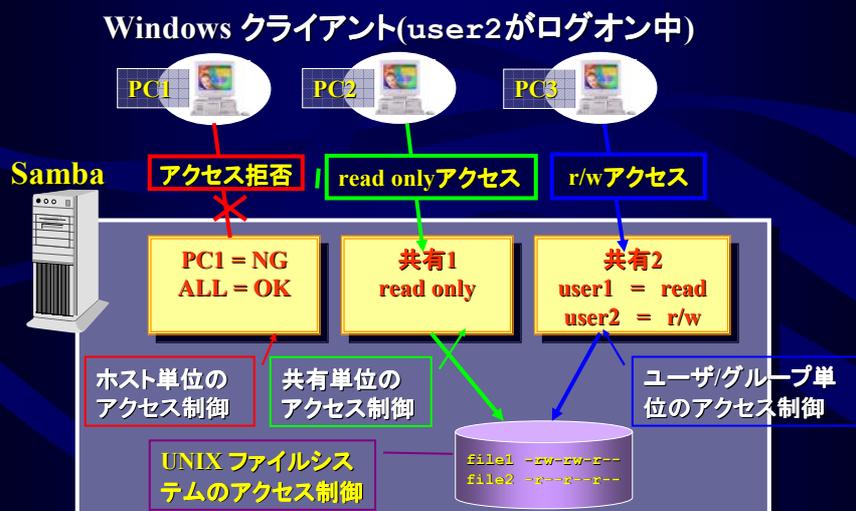
smb.confの設定例

```
[global]
map to guest = bad user
guest account = smbquest
...
[pub]
path = /home/samba/public
writable = Yes
guest ok = Yes
guest only = Yes
```

34

応用編(2):アクセス制御編

アクセス制御:概要(1)



アクセス制御:概要(2)

- ホスト単位でのアクセス制御
 - IPアドレスでのアクセス制御
 - `hosts allow, hosts deny`
- 共有単位でのアクセス制御
 - ユーザ、グループ単位でのアクセス制御
 - `valid users, invalid users`
 - 共有レベルでのアクセス制御
 - `read only, write list, read list`
 - IPアドレスでのアクセス制御、共有のACL
- ファイルシステムレベルでのアクセス制御
 - 伝統的なパーミッション、ACL(サポートされている場合)

37

アクセス制御:IPアドレスによる制御

- IPアドレス(ホスト名)ベースで、アクセス可能なホストを制限することが可能
 - `hosts allow`
 - アクセスを許可するホストを規定
 - `hosts deny`
 - アクセスを拒否するホストを指定
- ホスト単位、共有単位で設定することが可能
 - `[global]`セクションで設定すると、ホスト単位でのアクセス制御になる

smb.confの設定

```
[global]
...
hosts allow = 192.168.10.

[share]
path = /home/samba/share
writeable = Yes
hosts allow = 192.168.1.
```

38

「Sambaのすべて」P.128

アクセス制御: 読み書きレベルの制御

- デフォルトのレベルを指定後、例外のユーザやグループを個別に指定する
- read only (writeable)
 - 共有を読み取り専用にする(書き込み可能にする)、デフォルトYes
- write list = (ユーザのリスト)
 - 読み取り専用の共有に書き込み可能なユーザ(グループ)のリスト
- read list = (ユーザのリスト)
 - 書き込み可能な共有に対して読み取り専用でしかアクセスできないユーザ(グループ)のリスト

```
[share1]
...
read only = yes
write list = monyo, ¥
@admins
```

smb.confファイル

アクセス制御: ユーザ単位の制御

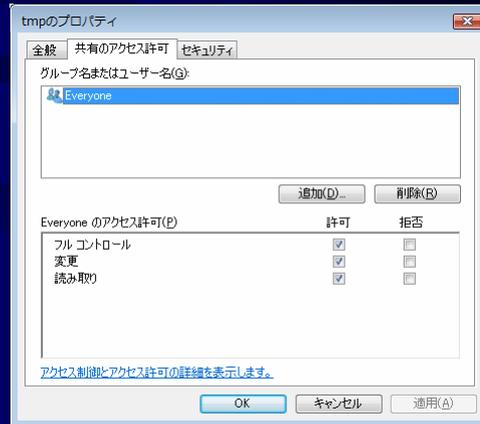
- 共有にアクセス可能なユーザを指定する
- valid users = (ユーザリスト)
 - 共有にアクセス可能なユーザ(グループ)のリスト
- invalid users = (ユーザリスト)
 - 共有にアクセスを拒否されるユーザ(グループ)
- admin users = (ユーザリスト)
 - 共有に対して、root権限でのファイル操作が可能なユーザ(グループ)

```
[share1]
...
valid users = @user
invalid users = guest
admin users = monyo
```

smb.confファイル

アクセス制御: 共有ACLによる制御

- Windows側から共有単位でアクセス可能なユーザやグループを制御
- 制御できるのは、
 - Sambaユーザ
 - net groupmapコマンドで登録済のグループ



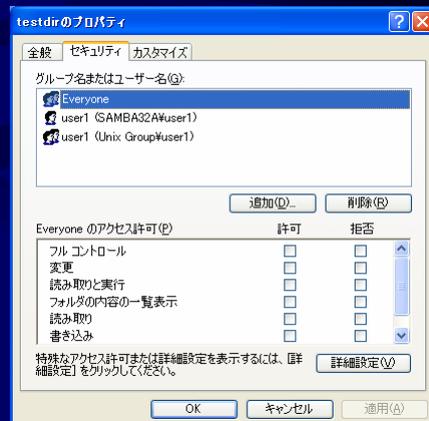
41

「Sambaのすべて」P.131

アクセス制御: パーミッションによる制御

- UNIXファイルシステムのパーミッションで許可されていない操作はできない
 - たとえば、書き込みできないファイルに書き込むなど

- パーミッション設定は、右のACL画面から参照、変更することも可



42

「Sambaのすべて」P.132

アクセス制御: ACLによる制御

- ACLに対応したファイルシステム & プラットフォームで可能
- Linuxの場合、ファイルシステムマウント時にac1オプションの付加が必要



43

「Sambaのすべて」P.137

アクセス制御: 設定例(1)

- アクセス不可、読み取りのみ、書き込み可能の三段階でアクセスを制御する例
 - 192.168.1.0/24からのみアクセス可能
 - usersグループのアカウントは、読み取り、書き込みともに可能
 - guestグループのアカウントは、読み取り可能
 - それ以外のアカウントは、アクセス不可

smb.confの設定

```
[share2]
...
valid users = @guests, ¥
@users
read only = yes
write list = @users
hosts allow = 192.168.1.
```

44

アクセス制御: 設定例(2)

- project-aグループに所属するユーザ(のみ)が読み書き可能な共有フォルダの設定例

```
# mkdir -p /home/samba/project-a ←共有したいディレクトリを指定
# chmod 2775 /home/samba/project-a ←グループ書き込み可能、setgid設定
# chgrp project-a /home/samba/project-a
```

```
[project-a]
path = /home/samba/project-a
writeable = Yes ←書き込み可能にする
valid users = @project-a ←project-aグループのみアクセス可能
force group = project-a
force create mode = 664
force directory mode = 775
```

全員がproject-aグループとしてアクセス、作成したファイルやディレクトリは互いに書き込み可能

応用編(3):共有のテクニック編

特定のユーザ以外参照できない共有

- ユーザによって提供する共有を変更することも可能(Sambaのみ?)

- group1がプライマリグループのユーザに対してのみ、share1共有が有効(available)に
- 多数の共有が一覧されるのを防ぐ目的でも便利

smb.confファイル

```
[share1]
...
available = no
include = share1.%g
```

share1.group1ファイル

```
available = yes
```

47

「Sambaのすべて」P.156

UNIX上のファイルを隠す

- 一部のファイルへのアクセスを禁止する設定

- veto files
指定したファイルは存在しないかのように扱われる

[share]

```
...
veto files = /.??*/
delete veto files = yes ←
```

アクセスを禁止されたファイル
が含まれるディレクトリの削除
を許可する

- hide dot files / hide files
ドット「.」から始まるファイル/指定したファイルを隠しファイルにする
- 隠しファイルが表示される設定になっていると無意味

48

「Sambaのすべて」P.173

UNIX上のファイルを隠す

- アクセスできないファイルを隠す設定

- hide unreadable = yes

アクセス権のないファイルが存在しないかのように扱われる

```
[share]
```

```
...
```

```
hide unreadable = yes
```

アクセス権のないファイル(ディレクトリ)の存在を隠す

```
[mana:/home/monyo/tmp/test]ls -l
合計 12
drwxrwx--- 2 monyo common 4096 10月 21 17:39 共通事務/
drwxrwx--- 2 monyo common 4096 10月 21 17:38 事業計画/
drwxrwx--- 2 root    hijiri 4096 10月 21 17:39 人事情報/
[mana:/home/monyo/tmp/test]
```



アクセス権のないディレクトリが表示されない

MS-DOS互換の設定(1)

- ファイル属性のサポート

- 「アーカイブ、読み取り専用、システム、隠し」の4つ

- ファイルの実行属性を使って、情報を保存

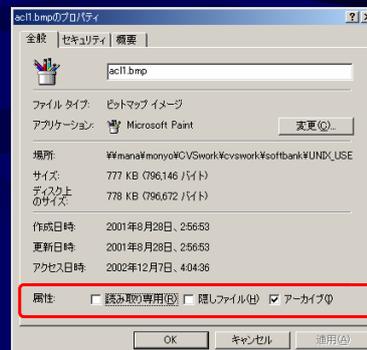
- map archive (所有者)

- map system (グループ)

- map hidden (その他)

- 拡張属性を使って、情報を保存

- store dos attributes



MS-DOS互換の設定(2)

- Visual C++などでビルドする際の設定
 - 不要なビルドを行わないようにする設定

```
[share]   ファイル・ディレクトリの作成時刻の設定を、MS-DOS互換の2秒単位にする
...
dos filetime resolution = yes
fake directory create time = yes ← ディレクトリ作成時刻を常に1970/01/01にする
```

- JP402160 [NT] NTFSからFATへのファイルのコピー時に日時が変わる
- UNIXには、ディレクトリ作成時刻の概念がない
- `delete readonly`
 - 読み取り専用ファイルの削除を許可する (MS-DOS互換の仕様の実現)

日本語の活用

- 日本語の共有名、コメントなど

```
[global]
server string = Samba %v サーバです

[共有1]
comment = テスト共有 No.1
```

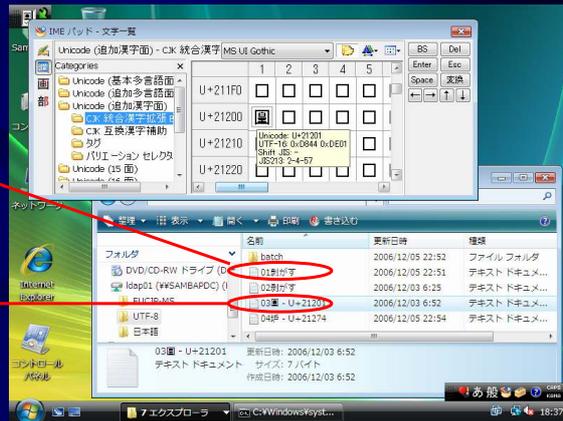
- `dos charset/unix charset`パラメータを適切に設定しておくことが必須
- `unix charset`パラメータに記述した文字コードで `smb.conf`を記述する

日本語の活用: JIS 2004対応

- Samba 3.0.8 以降では「対応」
 - `unix charset = UTF-8`が必須

JIS2004で追加された文字を使ったファイル名を扱える

UTF-16でのみ扱える
JIS2004で追加された文字にも対応



53

ファイルアクセスの監査

- `vfs_full_audit`モジュールなどにより監査

```

vfs objects = full_audit

full_audit:prefix = %u|%I
full_audit:success = connect disconnect
full_audit:failure = all
    
```

- ログ出力例

```

Dec 30 03:39:51 samba32a smbd_audit:
  local1|192.168.135.1|connect|ok|tmp
Dec 30 03:39:51 samba32a smbd_audit:
  local1|192.168.135.1|getxattr|fail (Operation not
  permitted)|.|user.DOSATTRIB
Dec 30 03:42:11 samba32a smbd_audit:
  local1|192.168.135.142|open|fail (Permission denied)|r|testdir
    
```

54

「Sambaのすべて」P.204

ゴミ箱

- recycleモジュールにより、削除したファイルの復活が可能

```
vfs objects = recycle  
recycle:maxsize = 2000000  
recycle:repository = .trash  
recycle:keeptree = yes
```

- パラメータにより細かい制御も可能

高度な機能

- DFS
- ボリュームシャドウコピー
- オフラインファイル
-
- Windowsサーバと同等の高度な機能も実装

応用編(4):その他のテクニック編

アクセスの監査



- utmpパラメータにより実現

```
utmp = yes
```

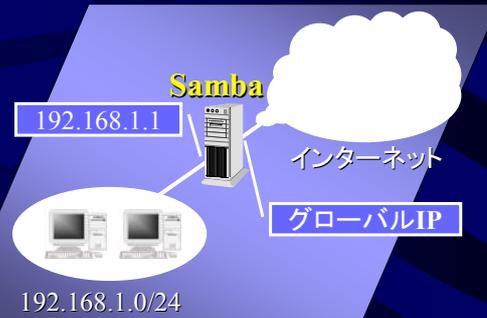
- ログ出力例

```
last | grep smb
mony   smb/1      192.168.135.1   Tue Nov 23 04:41  still logged in
smbguest smb/2      misa            Sun Jun 17 10:27 - 11:36 (01:08)
mony   smb/0      misa            Sun Jun 17 10:27 - 10:27 (00:00)
smbguest smb/0      mayuka         Sat Jun 16 23:05 - 23:15 (00:10)
smbguest smb/1      yukako         Sat Jun 16 22:48 - 11:36 (12:48)
```

```
$ ac -d smbguest
Jun 2 total      1.81
Jun 3 total      0.95
Jun 4 total      0.30
Jun 6 total      0.05
Jun 17 total     13.24
```

マルチホームでの注意点

- Sambaサーバを起動するIPアドレスは明示的に制御する必要がある
 - Sambaのデフォルトでは、すべてのIPアドレスで起動される
 - 特定のIPアドレスでのみ動作させたい場合は、要設定



```
[global]
interfaces = 192.168.1.1/24
bind interfaces only = yes
```

smb.confの設定(該当部分のみ)

マルチホームの例

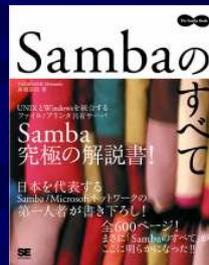
192.168.1.0/24とグローバルIPのネットワークに接続されている

59

「Sambaのすべて」P.47

参考情報ほか

- 日本Sambaユーザ会
 - <http://wiki.samba.gr.jp/>
 - 日本語による技術情報など
- 書籍「Sambaのすべて」
 - 著者／高橋基信
 - 発行／翔泳社



ISBN4-7981-0854-5 ¥3,980円

- 現在ドキュメント翻訳中
 - 協力していただける方を随時募集中です
「Sambaドキュメント翻訳プロジェクト」

60